

今後の製品開発

今後の製品開発にはライフサイクルにわたる環境影響への配慮が必要です。環境影響評価手段の一つとしてLCA（Life Cycle Assessment）手法が標準化されつつあります。当社は、絶縁電線やアルミ熱交換器材料開発などにおいてLCAに着手しています。その結果を材料選択、製造に生かしていく所存です。

2) リサイクル技術

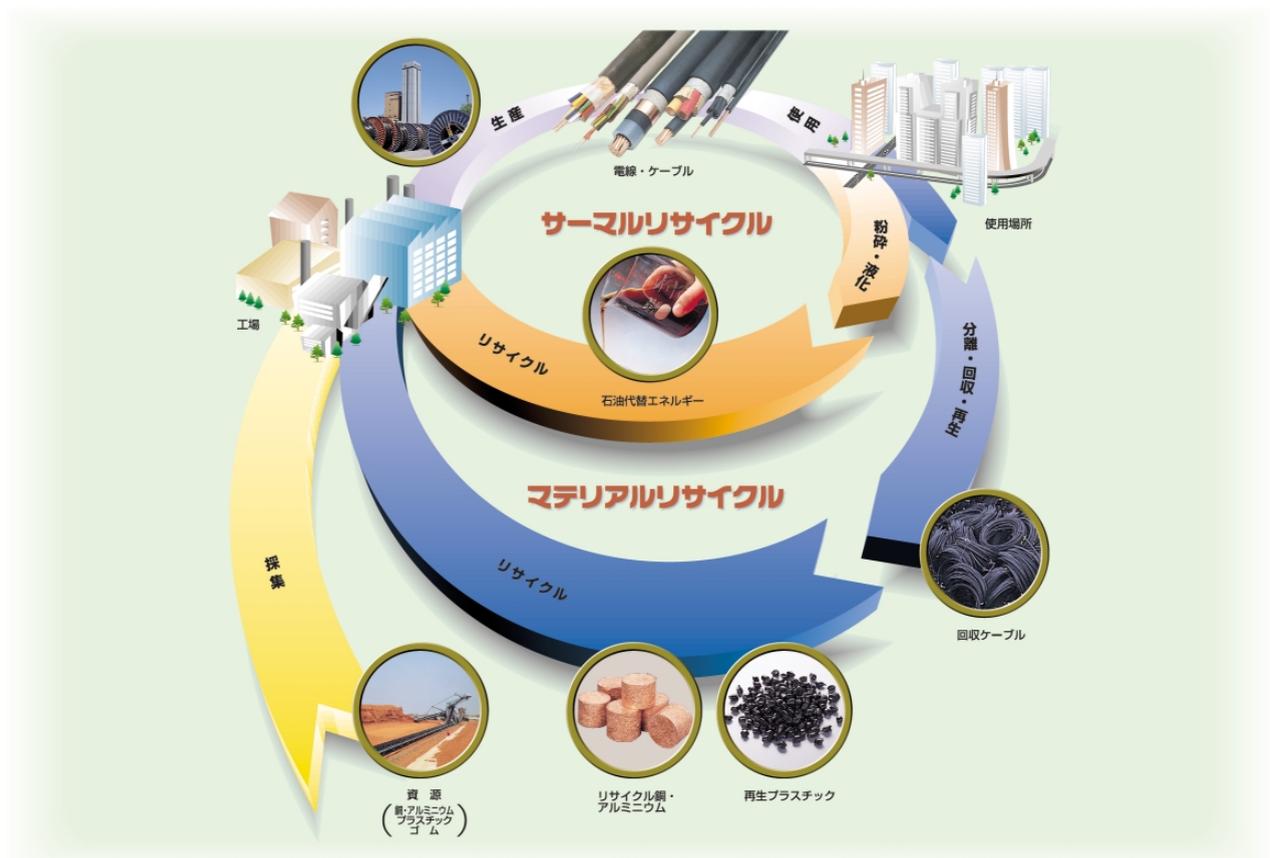
(1) 電線・ケーブルのリサイクルシステム

使用済みの電力ケーブルや通信ケーブルは顧客からの回収システムが確立しており、導体材料の銅、アルミは、ほぼ100%リサイクルしています。被覆材料も再生プラスチックあるいは燃料として、かなりの割合で、リサイクルできるようになっています。

(2) 国家プロジェクトによるリサイクル技術開発

電線・ケーブル業界、軽圧業界の1社として国家プロジェクトに参画し、各々電線被覆材料、アルミのリサイクル技術開発を進めています。電線被覆材料のリサイクル技術に関しては、通産省助成のもと、電線総合技術センター（JECTEC）とケーブルメーカー共同で1991年度から5年間油化・微粉化技術開発によるサーマルリサイクル研究を行いました。1998年度からは塩化ビニルの固形燃料化研究を進めています。

アルミニウムに関しては、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）より委託を受け、金属系材料研究開発センター（JRCM）と軽圧7社で1993年度より10年計画でアルミリサイクル促進技術開発を進めています。



当社は電線・ケーブルをはじめ、エレクトロニクス部品、プラスチックや金属素材及び技術を提供する総合メーカーであり、今後も環境問題解決のために幅広い技術を活かして、「トータルソリューション」を提案していきます。